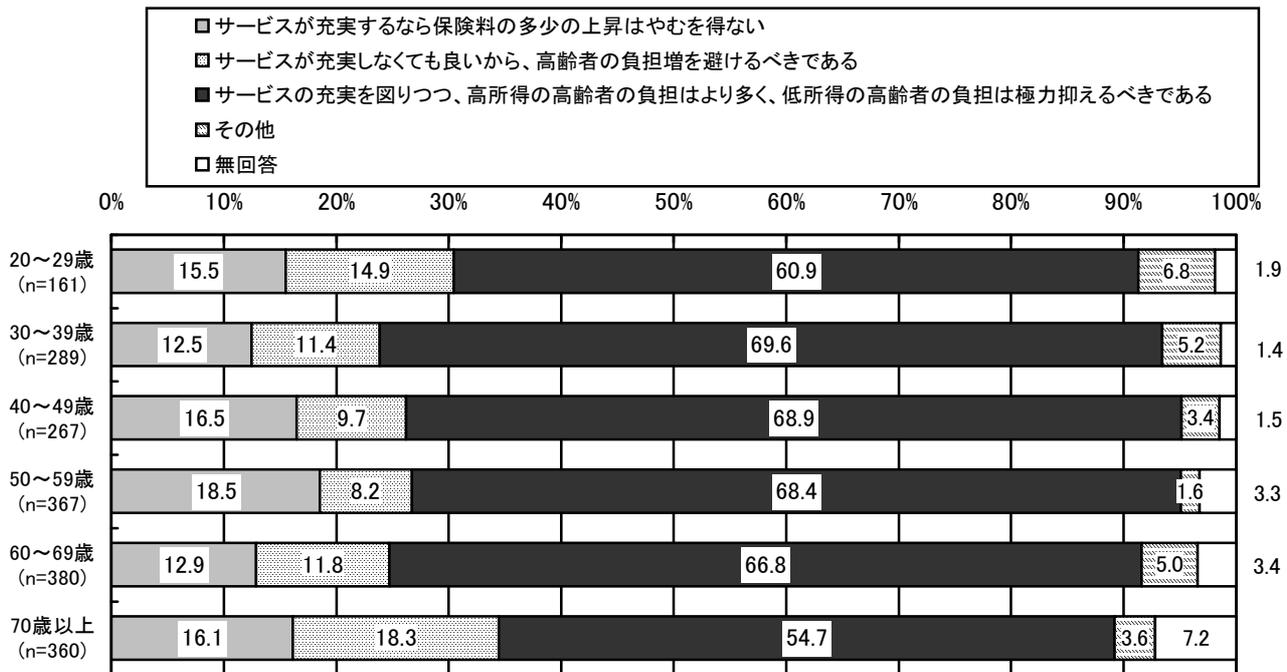


図 8-2-1 (年齢別 65 歳以上の介護保険料とサービスに対する考え)



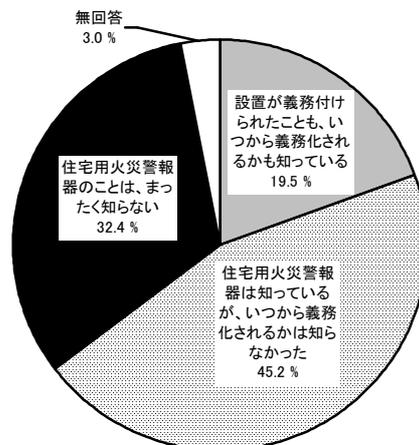
年齢別にみると、「サービスの充実を図りつつ、高所得の高齢者の負担はより多く、低所得の高齢者の負担は極力抑えるべきである」は30～39歳が69.6%と最も多く、次いで40～49歳が68.9%となっており、「サービスが充実しなくても良いから、高齢者の負担増を避けるべきである」は70歳以上が18.3%と最も多く、次いで20～29歳が14.9%となっている。(図 8-2-1)

## 9. 住宅用火災警報器について

### 9-1 住宅用火災警報器設置の義務付けについて

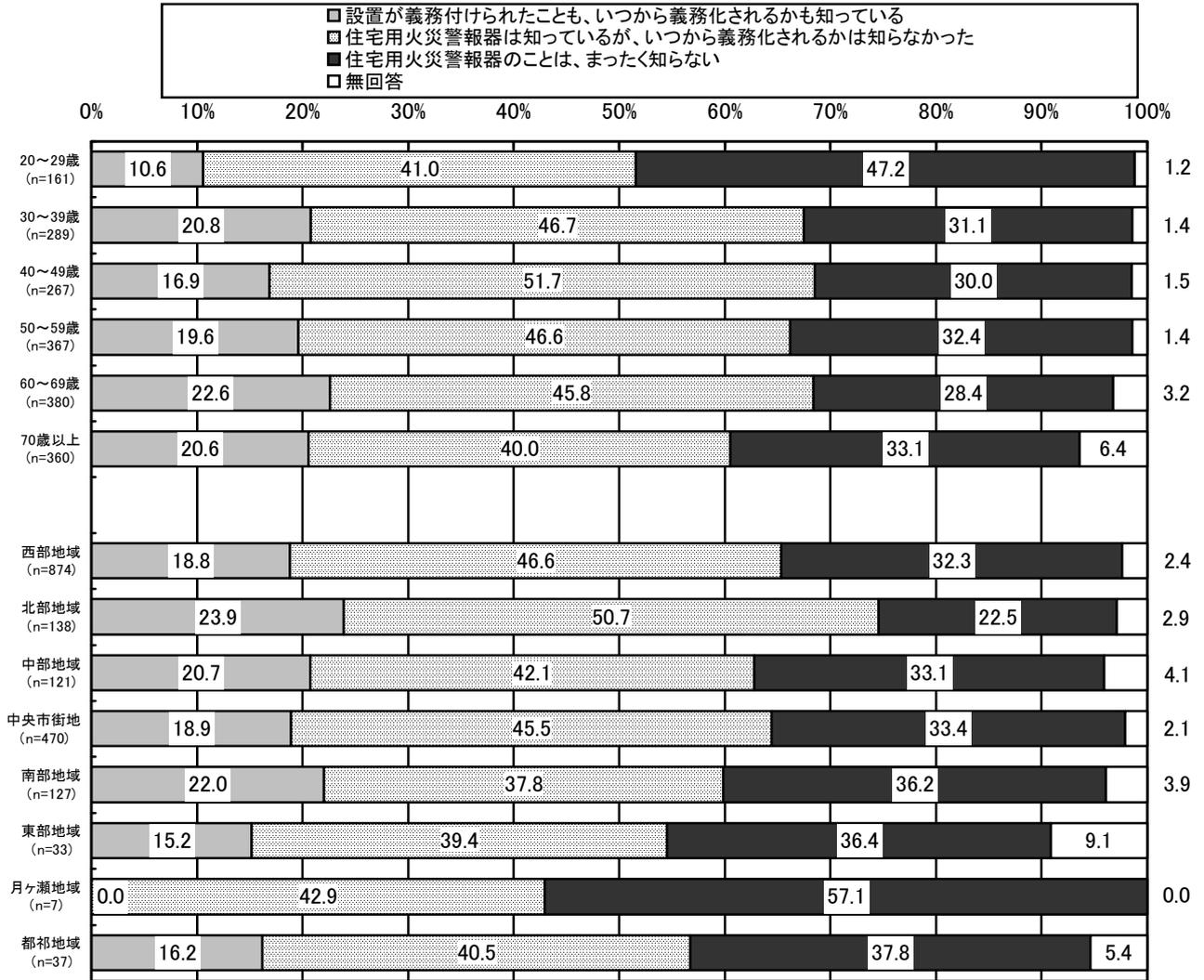
問23 あなたは、消防法の一部改正により、奈良市では平成21年6月1日までに全ての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務付けられたことをご存知ですか。(○は1つ)

図 9-1 (住宅用火災警報器設置の義務付けについて)【n=1,863】



住宅用火災警報器の設置が義務付けられたことについて、「住宅用火災警報器は知っているが、いつから義務化されるかは知らなかった」が45.2%で最も多く、「設置が義務付けられたことも、いつから義務化されるかも知っている(19.5%)」を合わせた、住宅用火災警報器の認知度は6割を超えているが、「住宅用火災警報器のことは、まったく知らない」という人は32.4%となっている。(図 9-1)

図 9-1-1 (年齢・地域別 住宅用火災警報器設置の義務付けについて)



年齢別にみると、「住宅用火災警報器は知っているが、いつから義務化されるかは知らなかった」は40～49歳が51.7%で最も多く、次いで30～39歳(46.7%)、50～59歳(46.6%)となっており、「住宅用火災警報器のことは、まったく知らない」は20～29歳が47.2%で最も多くなっている。「設置が義務付けられたことも、いつから義務化されるかも知っている」は60～69歳が22.6%で最も多く、次いで30～39歳(20.8%)となっている。

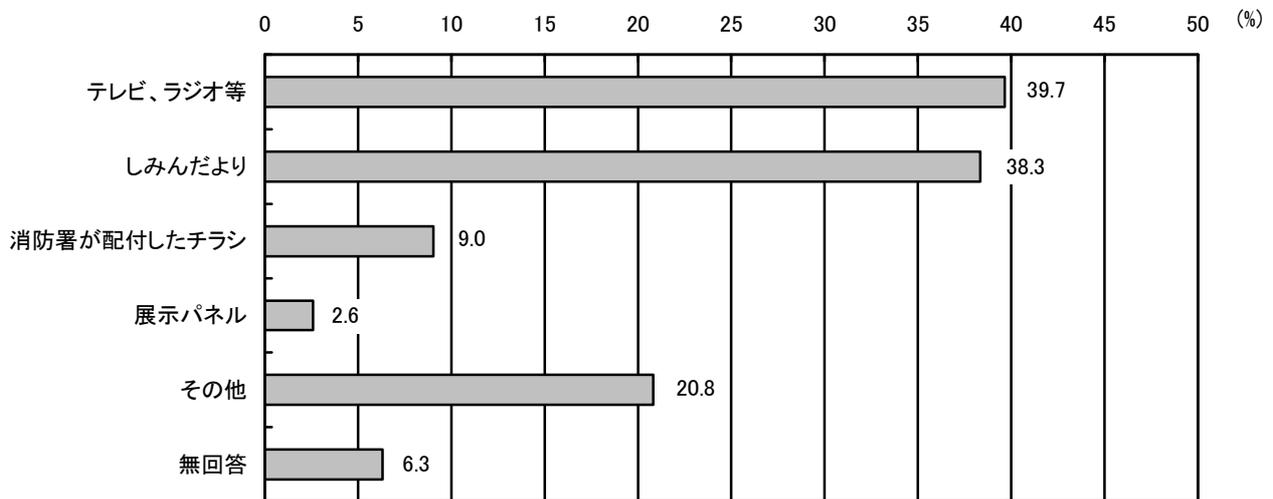
地域別にみると、「住宅用火災警報器は知っているが、いつから義務化されるかは知らなかった」は北部地域が50.7%で最も多く、次いで西部地域(46.6%)となっており、「住宅用火災警報器のことは、まったく知らない」は月ヶ瀬地域が57.1%で最も多く、次いで都祁地域(37.8%)となっており、「設置が義務付けられたことも、いつから義務化されるかも知っている」は北部地域が23.9%で最も多く、次いで南部地域(22.0%)となっている。(図9-1-1)

## 9-2 住宅用火災警報器情報の入手方法

問23で「1.知っている」、「2.知っているが、義務化は知らなかった」と答えられた方にお尋ねします。(問23-1、問23-2)

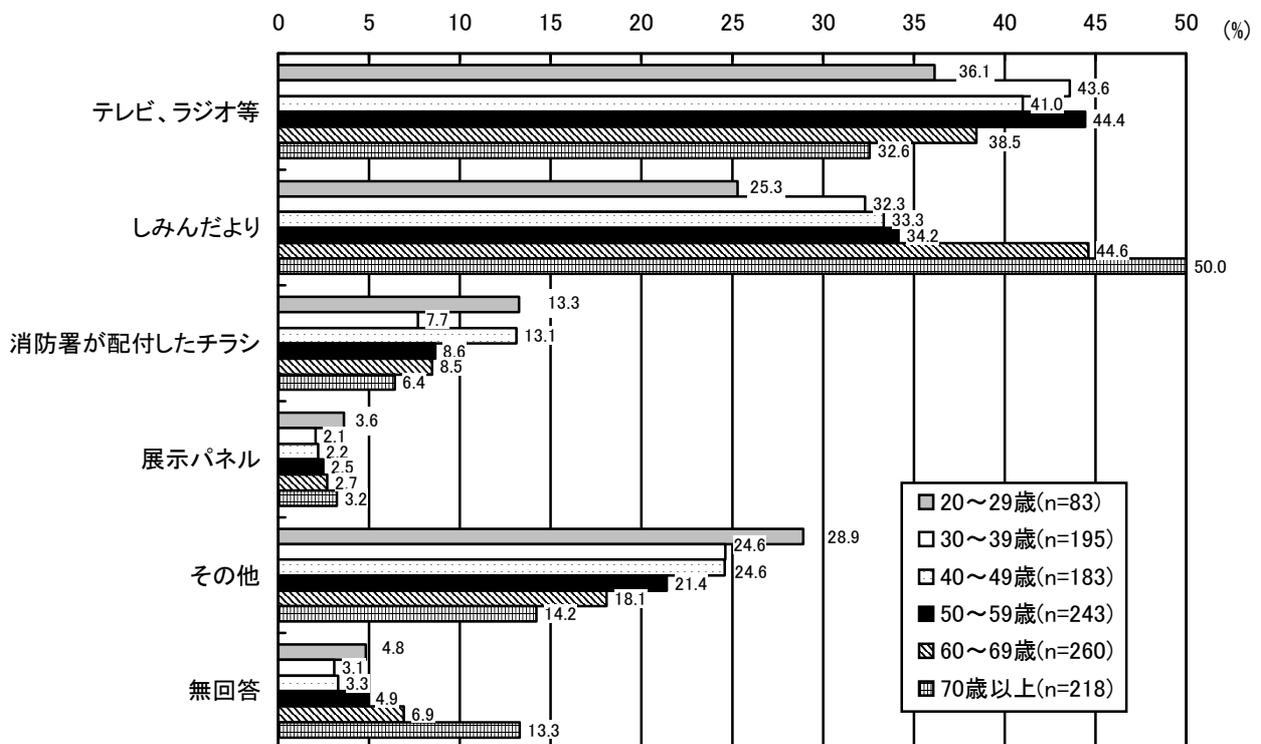
問23-1 住宅用火災警報器の情報をどこで得られましたか。(あてはまるものすべてに○)

図 9-2 (住宅用火災警報器情報の入手方法 複数回答)【n=1, 205】



住宅用火災警報器情報を知っている人で、住宅用火災警報器の情報の入手方法は「テレビ、ラジオ等」が 39.7%で最も多く、次いで「しみんだより (38.3%)」、「その他 (20.8%)」「消防署が配布したチラシ (9.0%)」の順となっており、情報の入手源としては、「テレビ・ラジオ等」「しみんだより」の2つが大きく占めている。(図 9-2)

図 9-2-1 (年齢別 住宅用火災警報器情報の入手方法 複数回答)

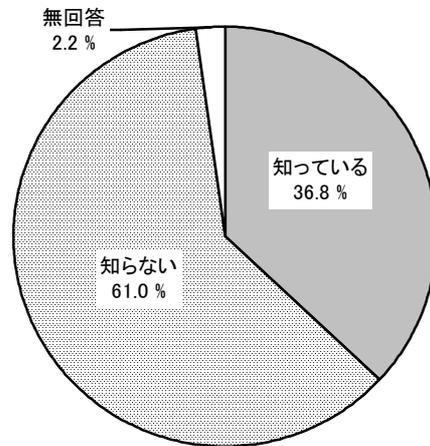


年齢別にみると、「テレビ、ラジオ等」で情報を入手しているのは、30~39歳 (43.6%)・40~49歳 (41.0%)・50~59歳 (44.4%)と多く、次いで「しみんだより」では、60~69歳 (44.6%)・70歳以上 (50.0%)が最も多くなっている。(図 9-2-1)

### 9-3 住宅用火災警報器の設置場所について

問23-2 住宅用火災警報器の設置場所は、原則として、住宅の各寝室および2階に寝室がある場合は、2階への階段の天井部分となっています。このことをご存知ですか。

図 9-3 (住宅用火災警報器の設置場所について) 【n=1,205】



住宅用火災警報器の設置場所について、「知らない」が61.0%と6割を超えており、「知っている(36.8%)」を大きく上回っている。(図 9-3)

図 9-3-1 (年齢別 住宅用火災警報器の設置場所について)



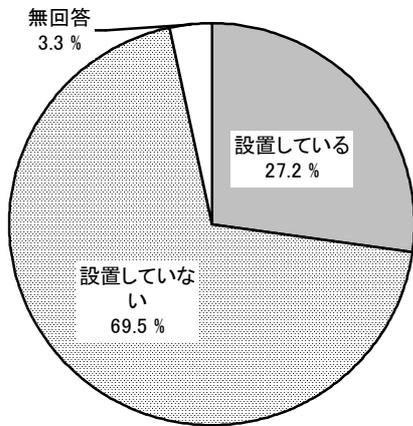
年齢別にみると、「知っている」は50~59歳が40.7%で最も多く、次いで60~69歳(39.6%)となっている。他の年代も3割以上が「知っている」と答えているが、20~29歳は2割以下となっており「知らない」と答えた割合が8割を超え最も多くなっている。(図 9-3-1)

## 9-4 住宅用火災警報器の設置状況

全ての方にお尋ねします。

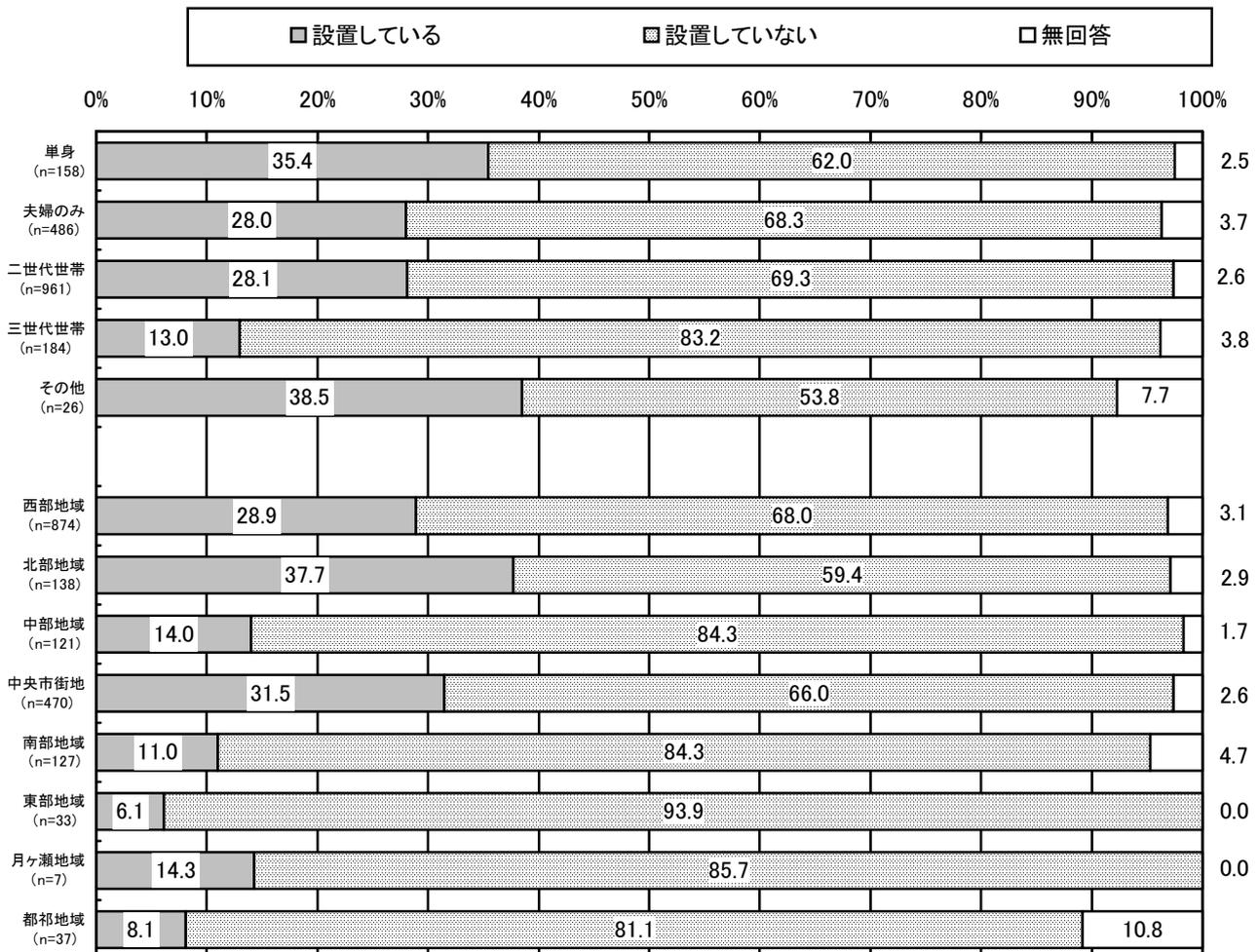
問24 あなたのお住まいには住宅用火災警報器が設置されていますか。

図 9-4 (住宅用火災警報器の設置状況)【n=1,863】



住宅用火災警報器を「設置している」は27.2%となっており、「設置していない(69.5%)」を大きく下回っている。(図 9-4)

図 9-4-1 (家族構成・地域別 住宅用火災警報器の設置状況)



家族構成別にみると、「設置している」はその他世帯(兄弟で住んでいる、四世代世帯等)が38.5%と最も多く、次いで単身世帯(35.4%)となっている。「設置していない」は三世帯世帯が83.2%と最も多く、次いで二世帯世帯(69.3%)となっている。

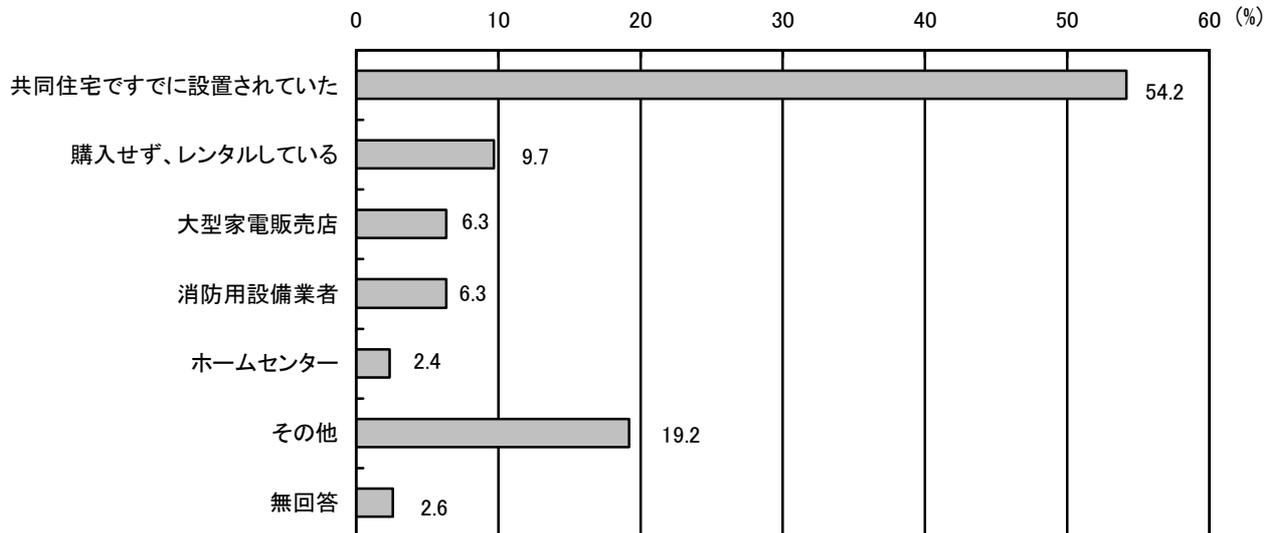
地域別に見ると、「設置している」は北部地域が37.7%と最も多く、次いで中央市街地(31.5%)となっている。「設置していない」は東部地域が93.9%と最も多く、次いで月ヶ瀬地域(85.7%)となっている。(図 9-4-1)

## 9-5 住宅用火災警報器の購入場所

問24で「1. 設置している」と答えられた方にお尋ねします。

問24-1 住宅用火災警報器をどこで購入されましたか？(あてはまるものすべてに○)

図 9-5 (住宅用火災警報器の購入場所 複数回答)【n=506】



住宅用火災警報器の購入場所で最も多いのが、「共同住宅ですでに設置されていた」で54.2%となっており、次いで「購入せず、レンタルしている(9.7%)」、「大型家電販売店(6.3%)」、「消防用設備業者(6.3%)」の順となっている。

住宅用火災警報器を設置していると答えた人の半数以上が、入居時には「共同住宅ですでに設置されていた」と答えている。(図 9-5)

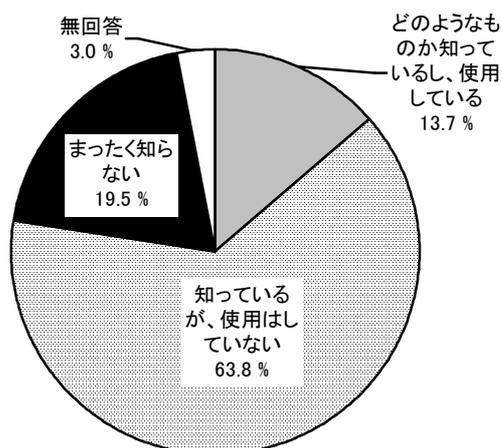
## 10. 防災製品の使用について

### 10-1 防災製品の認知度

問25 あなたは防災製品について、どのようなものかご存知ですか。(○は1つ)

※防災製品のカーテン、寝具類、衣服類などは、「火がつきにくい」「火が燃え広がらない」などの特徴があり、住宅火災を未然にまたは小規模に防ぐ効果が期待されるものです。

図 10-1 (防災製品の認知度)【n=1,863】



「どのようなものか知っているし、使用している」と「知っているが、使用はしていない」を合わせた防災製品の認知度は77.5%と約8割となっているが、実際に使用している人は13.7%となっている。(図 10-1)